

SHIN CLUB 151

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「La Torretta(沼袋の集合住宅)」 撮影：矢野紀行

新しい発想

写真は、新青梅街道沿いにこのたび竣工した6階建ての集合住宅です。斜めにのびる道との交差点の角地に建ち、変形敷地に沿うように空に伸びていく外形は、下層階から上層階にいくに従って、細くなっています。自由な平面形状と最大開口部を確保するために、「最小の柱梁断面を外郭で確保する」という条件が与えられ、その結果扁平柱厚を薄くしていく外観デザインが実現しました(545mmから220mmまで65mmずつ)。そして、大きく開かれた開口部の内側は、通常ならバルコニーなどとされる部分ですが、内部に収めることで新たな利用方法を促すゾーンを作り出しています。

設計は、若手建築家として有名な、谷尻誠さん。谷尻さんのユニークなところは、建築、あるいは物事の一つひとつの意味を、改めて問い直すところからスタートしていることでしょう。「既成概念をはずして考える」と一言で言っても、言葉を解体し、定義し直し、新しい価値観を考えることは、スポーツのトレーニングにも似て、そうたやすいことではありません。今月の「Frontline」の取材では、そういうタフな状況を若い人たちにも積極的に経験させていく姿勢に、いったいどうやって教えていくのか、とたずねたところ、「放牧ですよ」と笑いながらも、「人は追い詰められて初めて自分で考えることを始める」と自身の経験に照らして語ってくれました。先詰まりの経済環境、不安な政治、求められるのは新しいビジネスや発想だと誰もが言います。建築雑誌だけでなく、いろんなメディアで、谷尻さんの言葉は共感を寄せています。

さて、10月8日、日本中をビッグニュースが駆け巡りました。ノーベル生理学・医学賞を、京都大学教授の山中伸弥 iPS細胞研究所長(50)が受賞したのです。受賞理由は、「生物のあらゆる細胞に成長できて再生医療の実現につながる iPS細胞を初めて作製した」というものです。受精卵細胞をもとにした万能細胞であるES細胞に対し、iPS細胞はいったん分化して出来上がった皮膚の細胞から作られる万能細胞。生命の世界では逆戻りできないはずのプロセスを逆転させるこの研究の成功は、山中伸弥教授が高橋和利講師(当時は特任助手)と2006年発表したものでした。「ネズミの皮膚細胞から作った iPS細胞を、受精卵に近い状態まで、たった4つの遺伝子を組み込むだけで実現できる」という画期的な研究ですが、途中、「24個に絞られた魔法の遺伝子」全てを皮膚の細胞に入れると受精卵に近い細胞ができましたが、本当に必要な遺伝子はいくつなのか、チームは悩みます。解決のきっかけを作ったのが高橋講師でした。「導入する遺伝子を1個ずつ減らしてみてもどうか」と提案し、やってみると意外とあっさり4つに絞り込むことができたのだそうです。「この高橋氏の発想こそ大きな意味を持った」と、山中教授はノーベル賞受賞後のTV取材で述べていました。科学者、研究者としての崇高な資質がそこには見られました。

物事の意味を生きつ戻りつ考えることは大変なことですが、考え続けることの大切さを教えてくれた、世紀のニュースでした。

La Torretta(沼袋の集合住宅)



①最上階のオーナー邸の2層部分をつなぐ階段と半外部空間。開口部から豊かな周辺の景色を臨む。②オーナー邸最上階の入れ子状のリビングダイニング。手前はロフトへの階段。リビングダイニング内は吹き抜けとなっている。

「見立て」により、周囲の環境との関係性を自由に設定できる集合住宅

共同住宅の外観はバルコニーが決定している場合が多い。さらに、単身者のバルコニーはエアコンの室外機と洗濯物で成り立っている場合がほとんどだ。そのバルコニーは共用部分であり、一般的に居住者は自由には使えない。ならば、室内を外部に見立て、その部分を有効活用する方が入居者にとっては、外部との距離感を自分でコントロールできるのではないかと。つまり内部を外部に「見立て」をすることによって、例えば、40㎡借りている部分を100%所有しているという感覚を持つことができるのではないかと。

この計画では室内を外部に見立てることによって、すべての室があたかも庭を持つような空間を目指し



ている。2方向の接道を持つ変形敷地に沿うように建物の外形を決め、最小限の柱・梁によるラーメン構造で大きく自由な開口部を確保している。1フロア2戸の各賃貸住戸は入れ子のような部屋とそれを取り巻く、半外部で成り立っている。その半外部を庭に見立てるのか、オフィスに見立てるのかは居住者の自由である。風呂、トイレ、バルコニーと同様、1日のうち1時間も使わない空間をどう考えるかで、住宅は面白くなる。

構造的には、耐震性を考え、上層階に行くほど柱の厚さが65mmずつ薄くなっていくようにした。それを建物外観に形状として表現し、杉板型枠の打ち出しコンクリートとともに、建物の特徴となっている。スラブ厚を350mmのマットスラブとして、内部空間の自由度をあげ、賃貸フロアでは中央部のコンクリートの境界壁の剛性が建物全体に影響しないように、中央の腰脚部に薄い鉄板を差込み、絶縁した吊壁とした。

(谷尻 誠氏 談)

所在地：中野区 構造：RC造
規模：地上6階、塔屋1階 用途：共同住宅
設計・監理：谷尻誠／SUPPOSE DESIGN OFFICE
企画：タカギブランニングオフィス
竣工：2012年5月
施工担当：中村、園田
撮影：矢野紀行

世田谷区 M邸



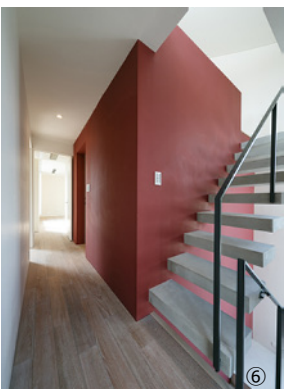
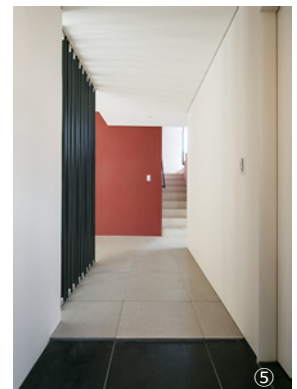
ライトコートを中心に回遊性と耐震性を確保した住宅

世田谷区の住宅街にRC住宅が完成した。近い将来東京で予想される震度7に耐えうる構造を有する住宅である。個人住宅において耐震性に対する重要性が増してきている昨今、ハウスメーカーでは得られない耐震性の高い基礎設計とした。基礎のみならず地上部の耐震性の安全性を満足させるならば開口部を出来るだけ少なくし外壁は耐震壁で構成すれば良いという事になる。

世田谷区M邸では、開口部を大きく確保し太陽光が降り注ぐ明るく開放的な住環境が求められた。自由な間取りが可能なRC造とすることで、ライトコートを中心としそれを包み込みフルオープンなサッシュを持つ開放的なプランを可能とし、リビング、ダイニングから繋がる回遊性を持ち広がり感のある住まいを実現した。限られた敷地という条件下のなか建築前には想像できないほど明るく開放的な住環境が実現した。完成した建物は建築主が予想していなかった、都会のオアシスのように感じる心地の良い空間を得ることが出来た。一品生産＝オートクチュールであるが故の理想の住宅を実現できたのではないかと、思っている。

完成までの道のりは決して楽ではないがそのプロセスも含めて、オーナーには楽しんで頂けたと感じている。

(中村 晃氏 寄稿)



①本実型枠と塗り壁による外壁②ダイニングルームからライトコートを見る。サッシュはフルオープンとなりテラスと一体の開放的なダイニング③ライトコート④本実型枠仕上げのアプローチ⑤赤銅色と格子がアクセントの玄関⑥光を透過させる階段

所在地：世田谷区
構造：RC造
規模：地上2階
用途：専用住宅
設計・監理：中村晃
／アーキプラス
竣工：2012年9月
施工担当：竹原、間瀬
撮影：アック東京

既成概念を覆すところから始める

谷尻 誠 / SUPPOSE DESIGN OFFICE 代表



Makoto Tanijiri



初めての著書『1000%の建築—僕は勘違いしながら生きてきた』を2012年3月刊行。各方面で話題となり、海外でも出版予定。

谷尻誠氏／東京オフィスにて
撮影：アック東京

今月は「(La Torretta) 沼袋の集合住宅」の設計者、谷尻誠氏にご登場いただきます。

今、若手建築家でもっとも活躍が目立っている谷尻誠氏。2003年、傾斜地に設計したカフェ併用住宅「Café Float」(毘沙門の家)で注目を浴び、以来、内外からの設計依頼が引きもきらない。建築だけでなく、ミラノサローネなどの展覧会やイベントなどの企画・運営、講演なども行う。広島を拠点に、東京にも事務所を持ち、活動の領域は広がっている。東京事務所でお話を聞かせていただいた。

—活動の拠点の広島事務所では設計だけでなく、毎月「THINK」というイベントにいろんなゲストを招いて、トークショーなども企画されていますね。なぜですか。

谷尻：建築を考えると、基本は「創らないこと」だと思っています。レストランを作るのに必要なのは、食事の行為と料理と料理人。普段、設計者がレストランの設計を頼まれれば、まずレストランらしいものを創ってしまいますね。しかし、何がレストランを決定づけているかは、そこではないと思います。例えば「THINK」の会場も、料理を食べればレストラン、歌を歌えばライブハウス、髪を切れば美容院、作品を展示すればギャラリーになるわけです。本質は行為にある。カフェであっても、みなが仕事をしていればそこはオフィスと呼んでもいい。作る側がオフィスというイメージを持っていますが、それでは楽しいオフィスは設計できない。オフィスを何が決定づけているのか、そういうこと自体を考えて設計しないとだめです。美容院もまず鏡ありきで設計しているけれども、戸外のパラソルの下、髪を切ってもらっているような風景は海外では珍しくはありません。とにかく、既成概念に陥ってしまっていることが多い。そんなことを考え、毎月「THINK」を開いて、ゲストにいろんな話をしてもらい、若いスタッフたちが自分たちなりに勉強して普段のリズムに生かしてくれればと思っているのです。

—その自由な発想は、ご自身の設計者としての経歴と関係があるのでしょうか。
谷尻：そうですね。僕の場合はいわゆるスタンダードではないですね。専門学校を出た後、最初に入った設計事務所では、特に誰かに建築を教わったと言うものではありません。要領よくやっていけば自由に時間も使えましたし、

実務は学べました。でも、今建てているような建物の作り方はまったくわからなかったですね。『新建築』や『住宅特集』などの専門雑誌は穴が開くほど見つけていて、何年何月号に誰の何という建築が載っているというのがすぐわかるくらい、デザインへの憧れはありました。

5年いて、次の事務所にも1年くらい在籍しましたが、次第に仕事がなくなって、独立することにしました。26のときでした。当時自転車レースをやっていたこともあり、昼間自由に時間を使えない仕事をする気がなく、新潟、長野、北海道・・・、下請け仕事をしながらレースに行くという日々。そのうち下請けなのにいろいろ提案するものだから、仕事が増えだん来なくなって、とうとう焼鳥屋のアルバイトで食いつないでいました。あるとき友人に「知り合いが店を出すから行ってみたら」と紹介されました。それまで商業系の建物の設計はまったくしたことがなかったのですが、がんばりました。以後「仕事を受けてから調べて自分で考える」ということを繰り返していくうちに仕事が増えていった、という感じですね。

—建物を作る際は、特に奇をてらっているわけではないですね。クライアントとの打合せでも、すぐにわかる話だけで終わってしまうから、建物の話はあまりしません。むしろ建築以外のその人の価値観、好みの方が大事です。「沼袋の住宅」でもいえることですが、当たり前で済ませてしまうところを、もう一度考えたい。それはたぶん、「教えてくれる人がいなかったから、考えること自体を自分でやるしかなかった」という自分の経歴が役に立っている。価値のないところに価値を作る、みんなが部屋とってないところに興味がある。価値観の変換レベルを高め、もっと新しいことをいろんな場面で行っていきたいですね。それはプランだけでなく、施工過程や材料の開発においてでもいえることです。

—材料ですか？

谷尻：例えば、今、ある別荘の設計を進めていますが、ただの発泡スチロールを積んで支えて、防水を1回かけ、吹付けコンクリートをふく。これをやると型枠が不要です。敷地が崖のようなところだと重機が下りないし、工事は大変になりますが、これなら簡単。土木の技術では当たり前のことを建築で使わないのはもったいない。建物が社会に及ぼす影響、ものをつくるときにどれだけのものが大量に捨てられているかということを改めて問い直しています。建築を創る上で、何が起きているかを考える必要があるのです。

—本日はどうもありがとうございました。

「建築の本質は行為にある。本質を考えないとだめなんです」

谷尻 誠 (たにじり まこと)

1974年 広島県生まれ

1994年 穴吹デザイン専門学校卒業

1994年～1999年 本兼建築設計事務所

1999年～2000年 HAL 建築工房

2000年 建築設計事務所 SUPPOSE DESIGN OFFICE 設立

現在 穴吹デザイン専門学校非常勤講師 広島女学院大学 客員教授

広島と東京を拠点に、数々の住宅や商空間、展示会場などに関する企画・設計・ランドスケープやインテリアのデザイン等を手がける。

広島事務所3階で毎月開いているイベント「THINK」で若いスタッフたちに囲まれて。



「第2回ZEN社一丸大運動会」 2012年9月9日 於：井の頭恩賜公園

昨年に続き、ZEN グループ全社による運動会が開催されました。暦の上では秋ですが、まだまだ厳しい暑さに見舞われた日曜日。グループ各社の実行委員の入念な準備の下、社員等 895 名が参加して楽しい競技が繰り広げられました。(参加会社：ZEN ホールディングス、麦島建設東京支店、ユニホー東京支店、ライフポート西洋、西洋ハウジング東京支店、オアフクラブ、タケダサービスカンパニー、池田建設東京支店、トヨタ工業、辰) 昨年は、グループ加入直後で、他社との合同チームだった「トヨタ工業」が「トヨタ不動産」とともに単独チームで参加、応援合戦、競技ポイントも 1 位を獲得し、総合優勝を飾りました。(写真右：圧倒的な仕切りを見せたトヨタ工業応援団長)



「第2回ZEN社一丸大運動会」を終えて 大会実行委員長

株式会社辰 代表取締役 森村和男

昨年の運動会終了後、麦島会長から下記 3 点の指示をいただいた。①来年もこの会場で開催すること②規模は 1000 人とする事③責任者は森村

昨年は第 1 回ではあったが、スタッフに恵まれ、何よりも天候の味方を得て大成功であった。出来すぎの昨年の記憶が鮮明に残っているだけに、正直、大変な重圧であった。

反面、大きな闘志もわいてきた。そして更により良い大会を目指し、先ず昨年成功のキーマンであった当社の石井をいの一歩に指名し、初夏から



準備に入った。昨年同様、ZENホールディングスを構成する事業会社より各社 2 名の実行委員を選抜していただき、毎週月曜の夜 6 時 30 分から、概ね 2 時間の打ち合わせを重ねた。昨年は殆ど遅刻もしなかった私だったが、今年は業績の数字がなかなか上がらないことに比例し、遅刻や欠席も数度あった。

しかし、そこは各社から選ばれた逸材、会合を重ねるごとにそれぞれが自分の役

割を果たし、最強のチームになるのにさほど時間はかからなかった。私は専らオーケストラの指揮者、と言うよりは、大きな流れを時折修正する程度であった。わかりやすく言えば、あの志村ケンの「バカ殿」を演じていればよかった。つまり、「殿、これで如何でしょう？」と聞かれれば、バカ殿「良きにはからえー。すると「ははっ！」という具合である。指示された方は、己の提案が故に懸命に行動してくれる。そして良い結果となる。私はこれこそが経営の極意ではないだろうかと思っている。そのことに気付かせてくれた実行委員には改めて感謝している。今回の運動会も大きな事故もなく、全社



今年も皆をまとめた石井総務委員長

が本気で盛り上がった大会であった。この運動会を機に ZEN ホールディングスは、全社一丸となり、世の為人の為に益々成長する企業になるものと確信できた。

「ご参加いただきました皆様、本当にありがとうございました」



「ZEN 途多難宝探しレース」子供たち ZEN 名物「1 日 10 軒大八車競争」もババ、ママと楽しく参加



手作りの看板で吉祥寺駅からの道案内



「綱引き」決勝戦終了後、来賓・役員・一般参加者を募って、追加の一番を盛り上げた麦島会長



辰の応援団。中央が村田応援団長



残念、優勝は来年におあずけ

応援団長を引き受けて

村田雄吾

とある土曜日の午前中、良く晴れた日でした。携帯が鳴り、何気なく電話に出ると、「もしもし、おまゝ運動会の団長に決まったから。」「えっ？えー！！・・・」

というわけで、団長をやることになったのですが、何しろ経験がない。これは困ったと思い、ひたすらネット検索・・・良いアイデアが浮かばない。

困り果てていた時、副団長高沢が良いアイデアを出してきました。「人文字はどうでしょう？」「いいね」と他の応援団員の反応。「よし、その方向でいこう」と動き出しました。打合せを重ね、今回の演技になったわけですが、高沢含め、綿貫、池上、谷の意見、アイデアのおかげで、何とかまとまり、本番を迎えられました。また、たくさんの方が社内練習に参加してくれたことが応援団を勇気づけてくれたと思います。やはり若い力が辰のウリ。来年もこの若い力があちこちから出てきてほしいと願います。

総務委員として参加して

堤沙織



景品やお土産の準備、看板などのデザインも担当。現場管理で鍛えた体力で当日も大活躍

準備期間から数えて約 3 カ月間、昨年の例はありましたが、一からの話し合いは大変でした。しかし、毎週回を重ねる毎に問題点が明白になり、まとまってくるそのプロセスに、とてもやりがいを感じました。

普段あまり話す事の出来ないグループ会社の社員の方との意見交換など、刺激を受ける事ばかりで、私にとって充実した時間でした。このような機会を与えてくださり感謝しています。また、不慣れで至らない事だらけでしたが、ご協力くださった皆様、ありがとうございました。

「(仮称) 新宿 3 丁目プロジェクト新築工事」 地鎮祭 10月4日



飲食店と事務所の入る、テナントビルです。

構造：S 造 +SRC 造
規模：地上 9 階、地下 1 階
用途：店舗・事務所
設計：鈴木孝紀建築設計事務所
完成予定：2013 年 10 月

「(仮称) 恵比寿南マンション新築工事」地鎮祭 10月4日



JR 渋谷駅から近い、賃貸 1 ルームマンションです。

構造：RC 造
規模：地上 3 階、地下 1 階
用途：集合住宅
設計：未公開
完成予定：2013 年 6 月

編集後記

・運動会では、グループ社員が一堂に介し、互いに切磋琢磨して、競い合いました。社員のみならず、家族、知人など参加者すべての人に笑顔が広がって行く様子が、手に取るようにわかりました。スポーツは、やはりいいですね。

(株)辰 通信 Vol.151 発行日 2012年10月10日 編集人：松村典子 発行人：森村和男

東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL: http://www.esna.co.jp